

特集

# 第10回津山国際総合音楽祭日本音楽部門

期 間：10月21日(土)～11月26日(日)

プレ期間：9月3日(日)～10月20日(金)



▲ 川村 旭芳



▲ 桐竹 繭紗也



▲ 伊藤 多喜雄

## 日本音楽部門 3公演

第10回津山国際総合音楽祭では、クラシックから映画上映会など19のプログラムの開催をします。

この中より今回は日本音楽部門のコンサート、3公演をご紹介します。

### ■ 筑前琵琶で語る平家物語

～美しくも哀れな女人たち～

● 11月1日(水) 衆楽園 迎賓館

14:30開演(14:00開場)

料 金：2,000円 ※全席自由

出 演：川村旭芳(かわむらさきよくほう)

主な予定演目：「祇園精舎」、「袈裟と盛遠」、「祇王と仏」

「祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり…」の冒頭句で知られる平家物語は、とりわけ一の谷や屋島、壇ノ浦などの源平合戦の場面が有名ですが、この公演では、運命に翻弄された女性たちのお話を取り上げます。

八百余年の時を越え、筑前琵琶の繊細な音色と語りで、美しくも哀れな女人たちの姿が、鮮やかによみがえることでしょう。

▼ 筑前琵琶



### 【琵琶 今昔…】

琵琶という言葉と共に多くの方が思い浮かべられるのは、正倉院宝物の中の豪華な螺鈿紫檀五絃琵琶(らでんしたんごげんびわ)ではないでしょうか。

正倉院の琵琶のうち、胴のふくらみが大きく棹(さお)の短い琵琶は、古代ペルシャを起源とし、シルクロードを経て唐から奈良時代頃に我が国に伝わり、宮中での雅楽の合奏に使用されて〈楽琵琶(がくびわ)〉と呼ばれるようになりました。楽琵琶は現在も、ほぼ当時のままの形で演奏されています。

一方、胴が細身で棹の長い琵琶はインド起源と言われ、インド系の琵琶は、伝来の時期や詳しい経路は明確ではありませんが、朝廷を介さず、九州地方に直接伝わった別ルートもあるようです。それらは土俗の民間信仰と交わり、盲目の法師によって、主に地鎮祭やかまど祓いなどの宗教儀式で演奏されるようになり、〈盲僧琵琶(もうそうびわ)〉と呼ばれました。

やがて律令制の崩壊に伴い、宮廷から野に下った楽人たちが、新たな庇護を寺院に求め、法師という形をとって活動するうちに盲僧琵琶と出会い、その軽量で携帯に便利なところを楽琵琶に取り入れて作り出されたのが〈平家琵琶(へいけびわ)〉です。かの有名な『平家物語』は、平家琵琶を奏でる琵琶法師らによって語り伝えられた口承文芸であり、それらの演目は《平曲》と呼ばれています。

〈薩摩琵琶(さつまびわ)〉〈筑前琵琶(ちくぜんびわ)〉は、いずれも盲僧琵琶をもとに芸能化されたもので、平家物語を始めとした殆どの演目が明治以降に新たに作詞作曲されています。

薩摩琵琶は、戦国時代に薩摩の島津家で武士の精神修養にと始められたのが明治維新と共に上京し、一般に演奏されるようになったものであり、筑前琵琶は、僧が民家に法要に行った時、お経だけでなく物語やニュースなどを、琵琶の伴奏にのせて語り聞かせていたのを、盲僧